

感震ブレーカーを知っていますか？

東日本大震災や阪神淡路大震災で発生した火災の**6割以上が電気に起因する火災**と言われています。大地震時の電気火災を防ぐには、揺れを感知して自動的に電気を止める「感震ブレーカー」の設置が効果的です。

感震ブレーカーとは？

地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に「配線用ブレーカー又は漏電用ブレーカー等」を遮断する器具をいいます。一般的なブレーカーは漏電には対応していますが、地震による火災対策には効力はありません。

感震ブレーカーの種類

①【分電盤タイプ】

分電盤に一定の震度を感知して電気を遮断する機能が付いたもの。

【基本型(感震センサー内蔵型)】

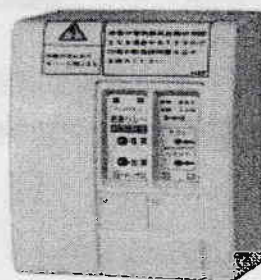
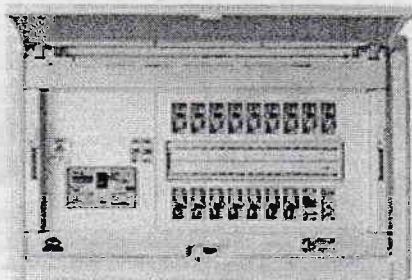
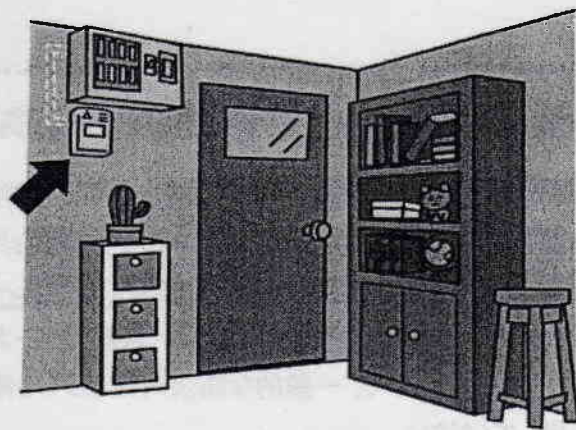
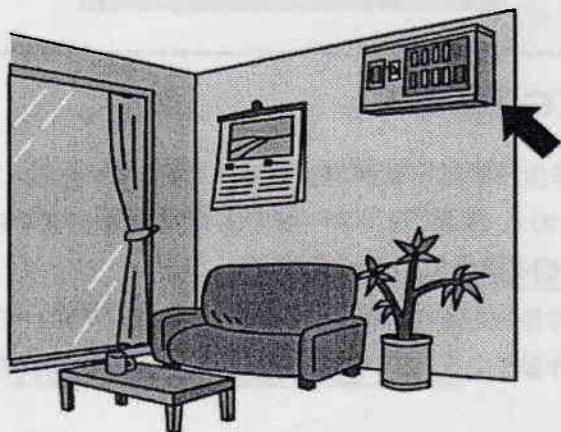
費用:5万~8万円程度(工事費含む)

購入方法:電気工事店に工事依頼

【後付型(感震センサー接続型)】

費用:2~4万円程度(工事費含む)

購入方法:電気工事店に工事依頼



②【コンセントタイプ】

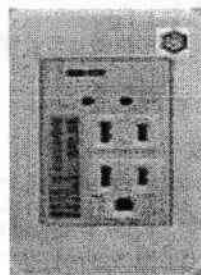
コンセントに内蔵した感震センサーが揺れを感知し、そのコンセントからの電気を止めます。

個別のコンセントの電気を遮断することができるため、電気ストーブ等の火事になりやすい箇所に適しています。

費用：2万円程度

購入方法：インターネット等

※埋め込み型コンセントタイプについては、工事が必要になります。



③【簡易タイプ】

揺れによる重りの落下や感震センサーと連動したバネの作用により、分電盤のスイッチを操作し、住宅内全ての電気を止めます。ブレーカーのスイッチに直接取り付けるもので、工事の必要はありません。一定の震度以上になった場合に、おもりが落下しブレーカーを遮断するタイプや、地震の揺れを感知して内部にあるおもりが揺れてセンサーに感知し、バンドがブレーカーを落とすタイプのものがああります。

費用：2千円～4千円程度

購入方法：ホームセンター及び家電量販店

※分電盤のタイプによっては、簡易タイプの取付けが出来ないものがあります。



【感震ブレーカー等を設置するにあたっての注意事項】

- 感震ブレーカー等の設置状況によっては、各地の発表震度が設定作動震度より小さい場合でも作動したり、逆に大きい場合でも作動しなかったりする場合がありますので、感震ブレーカー等の設置の有無に関わらず、地震発生後に自宅から避難する際にはブレーカーを切るようにしてください。
- 夜間等に大規模な地震が発生し、感震ブレーカー等が作動した場合、避難時の照明が確保できない可能性がありますので、一般的な防災対策としても停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備してください。
- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、平時から停電に対処できるようバッテリー等を備えてください。
- 右にあるような(一財)日本消防設備安全センターの登録した推奨品のマークがついているものをご購入するようにしてください。



※推奨マークは、一財団法人日本消防設備安全センターの登録商標です。

ご不明な点等がございましたら、こちらまでお問い合わせください。

千葉市消防局予防部予防課 TEL：043-202-1613